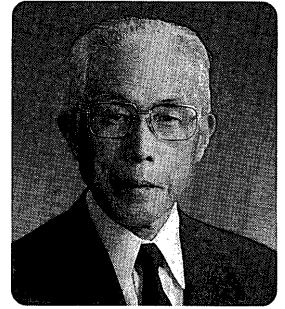


明倫歯科保健技工学雑誌の 発刊に際して

明倫短期大学 学長
内田 安信



本学は開学1年目にして茲に“明倫歯科保健技工学雑誌”第1巻第1号を刊行することとなった。大学の使命は、『深く専門の学術(学芸)を教授研究し知的、道徳的、社会的応用能力を展開・育成することにある』とされている。平成9年4月、我が国最初の歯科医療系(歯科技工士学科・歯科衛生士学科併設)の短期大学として、社会のニーズと歯科界の大きな期待を担って、(財)歯友会歯科技術専門学校を母体に開学、教職員一体となって、いま真摯な努力を続行中である。早速にも教学態勢の整備と共に研究面での地道な発展を期して、学内研究会を発足させ、その機関誌発行の前段階として紀要委員会が都合8回の審議を経て、関係する諸規定を教授会にて決定の上、先般来、学内研究会誌発刊の諸手続きを全て完了したところである。

歯科技工士学及び歯科衛生士学を確立し、夫々の分野での指導者育成も本学に課せられた重責であることを考察するとき、研究機構・組織・施設の充実、研究者の育成は喫緊の要事である。その最初の足がかりとして、表題に掲げる“明倫歯科保健技工学雑誌”が関係各位の努力に依って発刊の運びに到った事は、本学にとって正に記念すべき歴史的な学事と考えられる。教員各位はこれに依って、従来からの所属学会誌のみならず本学学会誌にも発表の機会と学术交流の道が与えられ、向後の存分な活躍が期待される。創刊号としての内容は、各教授による開学記念講演会のプロシーディングを冒頭に、《最近の歯科技工・最近の歯科衛生士について》と題し、歯科技工士の高等教育・歯科衛生士の近未来像の2総説が論述されている。また情報欄として「学内研究会、ゼミナール、関係学会だより」等も盛り込まれている。更に原著・論文欄には、懇切丁寧な査読委員会の厳重な審査をパスした《原著・臨床その他》なども掲載され、学術的に多彩な内容となっており、まこと創刊号の雑誌に相応しい記念すべき内容となっている。

本学は、開学の理念として、従来からの専門教育にとどまらず、我が国最初の歯科技工士学科と合わせて、歯科衛生士学科の両学科を備えた短期大学である故に、両学科共従来以上の、短大に相応な高度な知識・技能、すなわち学術と資質を磨き究め、情操豊かな人間性を備えた人材の育成も目標に掲げている。具体的には歯科医療技術の進歩・高度化・国民の歯科医療のニーズ等に即応できる専門技術を教授するのみならず、

研究活動も推進して、歯科技工士学並びに歯科衛生士学としての確固たる学問分野を確立、併せて前述の両学科の指導者育成という目標も堅持している。その上、歯科医療福祉分野の短期大学として学園生活を通じ、医療を介する立場から、患者さんの“痛み”がわかる“心”の教育すなわち患者心理、心身医学、口腔介護の教育も併せ行い、講義と実習を表裏一体化し密接させて、これらを存分に教科課程の実践に活かし取り組んでおり、益々継承発展させる覚悟である。

此のように全ての教育環境を維持発展させる上からも、学生はもとより教職員の教育研究活動の意力とムードを醸成する上からも、その基本的な原動力は、この度の学内誌の発刊にあるものと信じて疑わない。其のような大事な役割と意義が本誌に込められているわけであり、同慶の至りに堪えない次第である。

本誌が、開学を契機とした本学の濫觴からその発展の経緯を網羅し、木暮山人理事長の示された崇高な建学の精神・基本理念を体し、其の具現化に向けて、充実した内容や学問の香り高い論文論説などで飾られるならば、学内は固より学外を含め広く江湖に高い評価をもって受け入れられるに難くない筈である。繰り返して述べるならば、本学は、我が国最初の技工士学・衛生士学を学科目とした短期大学であり、其の動向は本誌に依って逸早く世間に承知されるわけである。本学は、謂わば、これらの学問大系樹立の先陣を承っている訳でもあり、先頭に立つた良きモデルとしての資質を、常日頃磨き鍛え歩んで行かねばならないものと覚悟を決めている。

今日迄、紀要委員会を中心に、本誌の発刊に際し様々な思索と努力が為されてきた。私は、その労苦に対し心からの敬意と謝意を表したい。乞い願わくば学内外から数多くの投稿をいただき、その豊富な論述に支えられ、本誌を通じて斯学情報の発進基地としての地歩を、是非本学雑誌に与え続けさせて頂きたいものと、心から希求し願っている。このようにして本誌が、巻・号を重ねる毎に着実な足取りでその内容の充実を計り、その発展の軌跡として、本誌に新生面を拓く優秀な学術論文が数多く登載され、教学一致全学を挙げて渾然として融和し、その躍進の精華が、本学研究会誌を中心として本学の発展の歴史に、光輝ある1ページを加えられることを期待し、発刊の辞と致したい。